

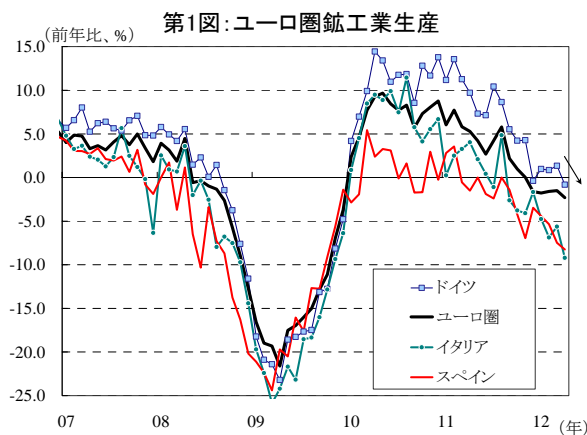
経済マンスリー [西欧]

EU はスペインの銀行問題に対応も、債務問題の解決には不十分

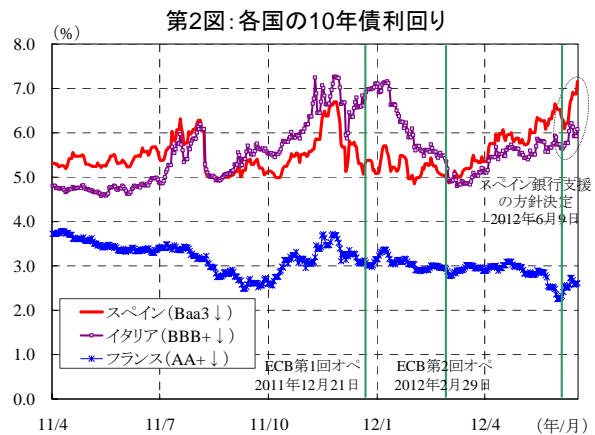
西欧経済は第 2 四半期も低調である。鉱工業生産は、相対的に堅調であったドイツでも 4 月に前年比マイナスに転じたほか、イタリアやスペインで大幅な減少が続いている (第 1 図)。また、財政緊縮による内需の圧迫は続き、ユーロ圏の失業率が 4 月に 11.0% とユーロ導入以来の最高水準に達するなか、消費者の信頼感は低迷している。ユーロ圏の 5 月の購買担当者指数 (PMI、総合) は 46.0 と、業況の拡大・縮小の境目である 50 を下回り、第 2 四半期は再びマイナス成長に陥ることが示唆されている。

世界中が注目した 6 月 17 日のギリシャの再選挙では、財政緊縮を支持する新民主主義党 (ND) が第 1 党の座を確保し、全社会主義運動 (PASOK) などと連立政権を樹立する見通しとなった。これにより、ギリシャのユーロ離脱とそれに伴い欧州経済・国際金融市場が大混乱に陥るリスクは一旦後退した。今後はギリシャと EU の財政緊縮に関する再交渉、そしてスペインの銀行問題に焦点が移るとみられる。

財政・金融不安の拡大するスペインに対し、ユーロ圏各国の財務相は 9 日、同国の銀行を支援する方針を決定したが、金融市場ではスペインの長期金利が一時、危機的水準とされる 7% をユーロ導入後初めて上回るなど、むしろ警戒は強まった (第 2 図)。最大 1,000 億ユーロの公的資金注入に伴い、同国の公的債務は GDP 比約 90% まで拡大する見込みのほか、欧州安定メカニズム (ESM) から支援金を受ける場合には、その返済は、スペイン国債の償還に優先される。格付け会社ムーディーズは 13 日、スペインの景気後退に伴う財政不安の拡大を指摘して、同国のソブリン格付けを従来の A3 から Baa3 に引き下げた。投資適格級では最も低い格付けであり、同社はさらに不適格級に下げることが検討中と表明している。スペインが苦悩する銀行不良債権問題と公的債務問題の同時解決に向け、EU 首脳は月末に開催されるサミットにおいて腰の入った対応を迫られている。



(資料) Eurostatより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(注) ()内は格付け、大手3社の中で最も低いもの。矢印はネガティブ見通し。
(資料) ECB、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 矢口 満 mitsuru_yaguchi@mufg.jp
大幸 雅代 masayo_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくご申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。